

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	経済学専攻	選抜区分	一般・ <u>外国人</u> ・社会人
試験科目	経済政策論(社会政策論を含む)		

次の問題から2問を選択して解答しなさい。なお、1つの問題につき1枚の解答用紙を使用すること。解答用紙には選択した問題番号を明記すること。

問題1 中央銀行がハイパワード・マネーをコントロールする手段のうち、①利子率操作、②公開市場操作について詳しく説明しなさい。

問題2 日本の今後の成長政策について議論を展開しなさい。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 経済学専攻 選抜区分 一般・外国人・社会人

科目名 経済政策論（社会政策論を含む）

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

出題意図

問題1 ①中央銀行は利子率操作を、インターバンク市場に介入して無担保コール翌日物金利を誘導する形で行う。インターバンク市場で利子率が上昇すれば、民間銀行の資金調達コストが高まり、市場に流れる貨幣の量は減少する。バブル崩壊以降、日本銀行が行ってきたゼロ金利政策や、マイナス金利政策も利子率操作の一環である。インターバンク市場における利子率を引き下げることを通じて、民間銀行の資金調達コストを下げ、貨幣の循環を良くして、景気を浮揚させようという政策である。②中央銀行が市場を通じて国債や債券を購入（買いオペ）したり、売却（売りオペ）したりすることを公開市場操作という。中央銀行が債券を購入すれば、その対価として市場に貨幣が供給される。

問題2 成長政策としては、資本蓄積を促進する政策、技術進歩を促進する政策、労働者数を増加させる政策が考えられる。資本蓄積は投資によって行われ、その投資の源泉は貯蓄である。したがって資本蓄積を促進するには、投資または貯蓄を促進すればよい。投資を促進する政策としては、投資減税などの財政上の優遇措置を考えることができる。金融政策などを用いて利子率を低く維持することも投資の促進に役立つ。貯蓄率低迷の原因が高齢者による貯金の取り崩しにあることから、年金等の社会保障制度のありようは、それを反映した生涯にわたる人生設計を通じて、貯蓄に影響を与えると考えられる。

技術進歩を促進する政策として、基礎的な研究活動に対する補助や特許制度の整備等が挙げられる。特許は R&D 活動によって新しい技術を開発した企業に一定の独占利潤を保証する制度であって、企業の R&D 活動に対するインセンティブに影響する。ただし、特許によって保護される期間は最適に設定されなければならない。

労働者数を増加させる政策としては、専業主婦（主夫）や、すでにリタイアした高齢者の雇用を促進する政策をよりいっそう推進することが考えられる。移民の導入による労働力の確保については、経済学的視点からはコミュニケーション・コストなど様々な費用が生じることが懸念されている。

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）
第1期募集 入学試験問題

経済学専攻 科目名：経済理論（外国人留学生選抜）

ミクロ問題

- 1) ピーク・ロード料金について説明せよ。
- 2) 2部料金制度について説明せよ。
- 3) 外部性について説明した後に、外部経済と外部不経済について、それぞれ事例を挙げて具体的に説明せよ。
- 4)

（出典）井堀利宏 『入門ミクロ経済学（第2版）』新世社・2004年383頁・問題2

マクロ問題

代表的家計の効用関数を $U(C_t) = \ln C_t$ 、割引率を $\rho \geq 0$ 、実質利子率を $r \geq 0$ とする。

ここで C_t は t 期の代表的家計の消費量である。

代表的家計は生涯効用 $\sum_1^T \left(\frac{1}{1+\rho} \right)^{t-1} U(C_t)$ を最大にするように、毎期の消費量と貯蓄量を

決定しているものとする（ t 期に S_t だけ貯蓄すれば、 $t+1$ 期には $(1+r)S_t$ となる）。

代表的家計は毎期 Y だけ所得を稼ぎ、初期資産はゼロで遺産を遺さないと仮定する。

この設定の下で以下の問に答えなさい（導出過程も省略せずに記述すること）。

- 1) 生涯予算制約式を導出しなさい。
- 2) 代表的家計の効用最大化問題を解いて、最適な $C_t, t=1, 2, 3, \dots, T$ を、 ρ, r, Y の関数として導出しなさい。
- 3) 動学的消費経路の特徴を、 ρ と r の大きさに注意して説明しなさい。またその経済学的な解釈も記述しなさい。
- 4) ライフサイクル仮説や恒常所得仮説で想定される消費関数が、代表的家計の効用最大化問題を解いた結果導かれた消費関数と整合的であることを示しなさい。
- 5) 恒常所得仮説の考え方に基づいた場合、「1回限りの全国民一律10万円配布」という政策によって消費を高めることは可能だろうか？理由とともに説明しなさい。

2022 年度博士課程前期（第 1 期募集）、経済学専攻、経済理論

出題意図

経済理論の入学試験では、事前に指定された 2 冊のテキスト（『入門ミクロ経済学（第 3 版）』（井堀利宏、新世社、2019 年）、『入門マクロ経済学（第 4 版）』（井堀利宏、新世社、2020 年））で取り扱われた範囲に絞って出題している。

経済理論を学習するにあたって、大学院で要求されるレベルと、学部で要求されるレベルとでは、大きなギャップが存在すると言われている。そのため、学部レベルの経済学と数学を十二分に理解していることは、大学院で経済理論を学ぶために最低限必要な条件である。よって出題者は、以下の 3 つの能力が受験生に備わっているかを確認することを意図して本試験を作成し、採点する。

- ① テキストの内容を適切に理解できる力があるか。
- ② テキストの内容を踏まえて、現実の経済現象について自分の言葉で論じる力があるか。
- ③ 大学院で経済学を学ぶために最低限必要な数学的知識を身に着けているか。